

新型コロナウイルス (COVID-19) 特集～当院の対応～

新型コロナウイルスもようやく新規感染者が減ってきて、緊急事態宣言も解除されましたが、2020年以来、感染者は後を絶ちません。

当院ではダイヤモンド・プリンセス号の集団感染が話題になっていた2020年の4月から新型コロナウイルス感染妊婦の分娩を担当しています。全国で2例目、手探りでの分娩でした。以来この2年と少しの間で130例を超える妊婦さんを受け入れてきました。

当院は感染症センターをもち、コロナ禍以前から緊密に連携しながら様々な感染症合併妊婦を受け入れてきました。10年前の新型インフルエンザでは全国初の分娩を、また感染の抑制が難しい麻疹に感染した妊婦さんの分娩を担当するなど、新興感染症合併の妊婦さんも「断らない」姿勢を続けています。

新型コロナウイルスに関してはそれだけでなく、学術的な検討と綿密な打ち合わせを繰り返し、全国に先駆けて可能な限り自然分娩をして頂くという方針で臨み、50例の自然分娩に成功しています。日本では未だに多くの地域で予定帝王切開での分娩が行われていますが、われわれの経



▲感染防御下での帝王切開

験を共有することで大阪府下では2/3の新型コロナウイルス感染妊婦が経膈分娩を行うまでになっています。当院を含め、大阪府下では新生児への感染や分娩による院内クラスターは1件も発生していませんのでコロナになってもどうか安心して分娩して頂ければと思います。とはいえ、新型コロナウイルスに感染した状態で分娩になれば生んだあと隔離期間が終わるまで赤ちゃんを抱っこしたり直接母乳をあげたりはできません。赤ちゃんも濃厚接触者として扱わないといけません。

新規感染者が減り、飲食店の規制がゆるくなっているとは言えやはり今後とも手洗いや密な場面ではマスクをするなどの感染防御を続けて頂ければ幸いです。

診療局次長兼産婦人科部長
兼周産期センター産科医療センター長
兼医療安全管理室副室長 荻田 和秀

▶オンラインでの
赤ちゃん面会



▼出産直後、遮蔽越しでの
ご対面



6階山側病棟より

～感染症合併妊婦のサポート～

妊娠、出産は大きな喜びである一方、お母さんのからだに大きな負担がかかる大仕事です。出産という一大イベントを迎えるにあたり、体調管理を行い赤ちゃんに影響のある飲食や感染症対策には日々気を遣っていることだと思います。

今回は、妊娠中に新型コロナウイルス感染症にかかってしまった妊婦さんがどのように出産を迎え、赤ちゃんと共に退院していくのかについてお話をしたいと思います。

新型コロナウイルス陽性となった妊婦さんに何らかの症状がある、あるいは医師が入院を必要と判断した場合、感染症専用病棟に入院となります。入院中は、産婦人科医と感染症専門医が連携し体調管理を行います。私たち看護師は、医師と情報共有し妊娠期を安全で安楽に過ごせるようにケアします。感染症が落ち着いた妊婦さんは退院となりますが、この期間に分娩が進行した場合、専用の分娩室で感染対策を十分に施し出産を迎えます。医師と助産師が傍に付き添い不安を解消しながら、赤ちゃんの誕生

をお手伝いします。赤ちゃんは、誕生直後から小児科医が日々体調管理を行い、お母さんの隔離期間が終了するまでミルクを飲んだり、沐浴などをして過ごします。出産翌日から毎日、スマートフォンやタブレット端末を用い赤ちゃんとお母さんと動画で面会をします。同時に私たちがお母さんの体調の確認やおっぱいケアも行います。そして、お母さんが隔離解除になると産婦人科病棟で赤ちゃんとお話し、退院に向けて育児手技が習得できるようにサポートしています。

退院の日、赤ちゃんとお母さんの姿を見送られることが私たちの幸せでもあります。未来ある赤ちゃんの成長をお祈りしています。



6階山側病棟 看護師長

高島 麻由美